第１章　現況の整理

1　桐生市の概要

地勢・沿革

桐生市は群馬県東部に位置し、1921年の市制施行後、2005年には新里村、黒保根村との合併を経て現在の市域となりました。渡良瀬川や桐生市側が流れ、市域の約７割が森林をしめるなど、豊かな自然環境に恵まれています。



桐生市域

※図版は総合計画より。本構想・計画用に再作成予定

歴史・文化的特徴

桐生市は古くから織物産業によって発展してきたまちであり、「西の西陣、東の桐生」と称される国内有数の織物産地として知られています。現在もノコギリ屋根工場をはじめとする歴史的建造物が数多く残り、地域固有の歴史や文化がまちなかに息づいています。こうした産業遺産や地域文化は、市民共有の財産であるとともに、次世代へ継承していくべき重要な地域資源となっています。



ノコギリ屋根工場



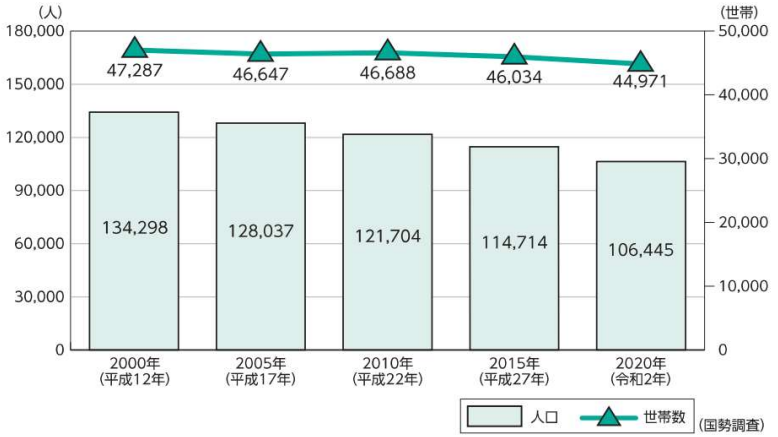
桐生織

人口動向

桐生市の人口は、1975年（148,376人)をピークに一貫して減少しており、世帯数についても減少傾向が続いています。

このような社会環境の変化の中で、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続けることのできる環境や、多様な世代が交流し、つながることのできる場の重要性が高まっています。

人口・世帯数の推移



※図版は総合計画より。本構想・計画用に再作成予定

1　桐生市の概要

まちの空間を生かした活動と交流

歴史的な建物や町並みは、現在の活動の場としても活用されています。有鄰館では建物を舞台に展示や演劇、音楽などの活動が行われ、まちなか交流館では地域の歴史や魅力の発信、交流が進められています。　既存の建物を生かした店舗や、まちなかで開かれる骨董市など、地域の空間や資源を生かした多様な営みが見られます。

興味を深め、学び、つくる環境

市内には、公民館や市民活動推進センター「ゆい」など、学習や自主的な活動を支える拠点があり、大学による講座や科学に触れる機会も設けられています。また、桐生駅北口の「tsukurun KIRYU」では、小中高生等がCG制作やゲームプログラミングなどを体験できる環境があります。

地域を知る学びから新しい技術を使った創作まで、多様な興味や関心を育む場があります。

ものづくりの技術と新たな文化

桐生市では、織物に関わる染めや織り、刺繍などの技術が受け継がれています。自動車部品などのものづくりも行われ、群馬大学理工学部と地域の企業が協力して、新しい技術や製品を生み出す取組も進められています。また、まちなかにはファッションや古着を扱う店やボードゲームカフェ等が新たに生まれ、アウトドアなどを通じて暮らしの楽しみ方を提案する店もあります。ものづくりの伝統とともに、一人ひとりの感性やこだわりから生まれる商いや文化が息づいています。


有鄰館での市場


tsukurun KIRYU


商店街の古着店


アウトドアショップ

2　上位計画等との関連

第六次桐生市総合計画

第六次桐生市総合計画では、将来都市像として「感性育み未来織りなす粋なまち桐生」を掲げています。

生涯学習分野においては、住民自らの学びをよりよい地域づくりへとつなげるため、学校や地域、その他多様な主体との連携による生涯学習の推進を掲げ、これからの社会教育施設では、専門性や特色を生かした、多様な世代に対応した学習機会の提供を図ることとしています。

公共施設等総合管理計画

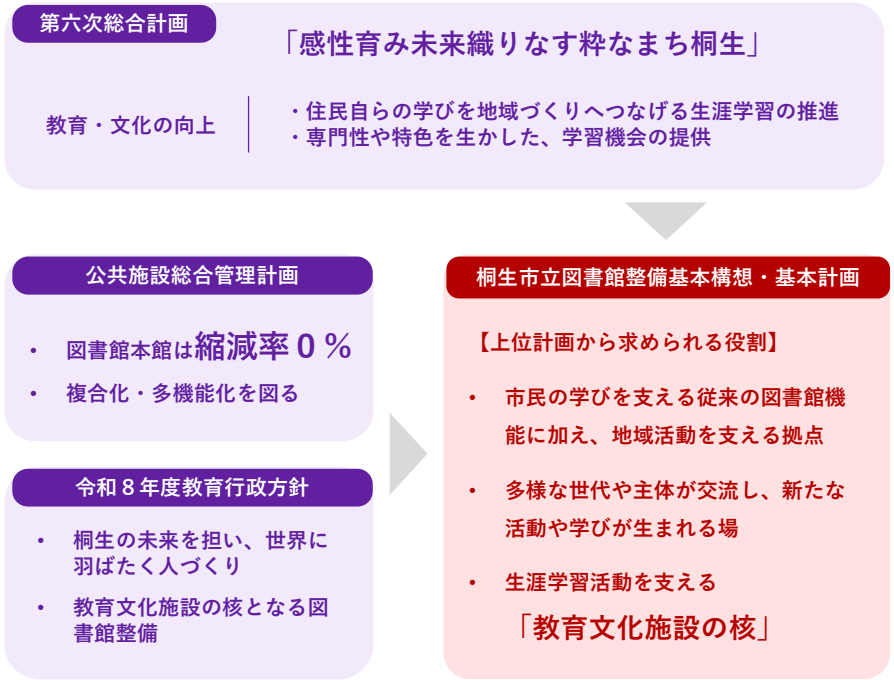
桐生市公共施設等総合管理計画では、図書館本館について、施設規模を縮減せず、複合化・多機能化による再編を検討することとしています。人口減少や公共施設の老朽化が進む中、限られた公共施設資源を有効活用しながら、市民サービスの維持・向上を図るため、施設機能の集約や複合化を推進する方針が示されています。

令和８年度教育行政方針

令和８年度教育行政方針では、第３期桐生市教育大綱に掲げる基本理念「桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり」の実現に向けた主要な事業・取組として、教育文化施設の核となる図書館整備を位置付けています。また、生涯学習の推進や読書活動の充実を通じ、市民の学びを支える環境づくりを進めることとしています。

上位計画から求められる新たな図書館の役割

これらの上位計画では、市民の学びを支える環境の充実、多様な主体との連携による生涯学習の推進、施設の複合化・多機能化及び教育文化施設の核としての機能強化が求められています。このことから、新たな図書館には、市民の学びを支える拠点としての機能に加え、多様な世代や主体の交流を促し、生涯学習活動を支える教育文化施設の核としての役割が求められます。



3　図書館本館・中央公民館の現況

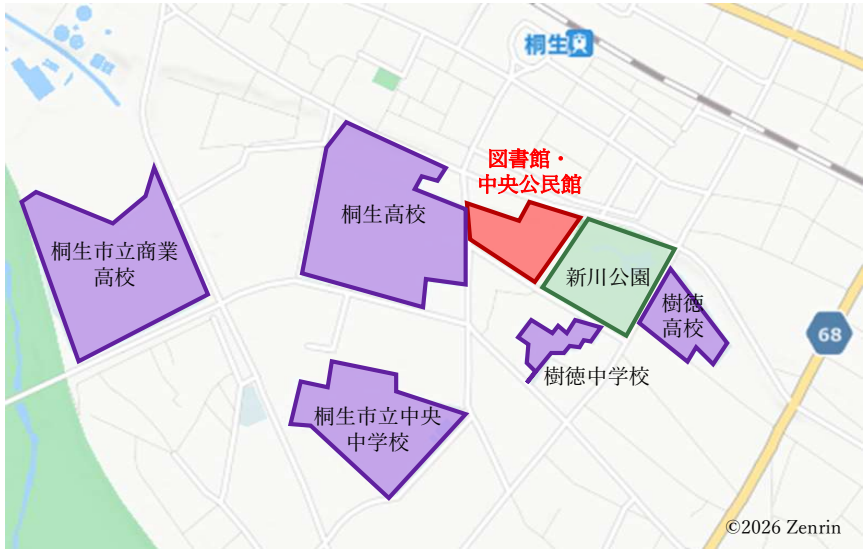
図書館本館・中央公民館施設概要

現図書館本館・中央公民館は、桐生駅の南側に位置し、周辺には複数の中学校・高等学校が、隣には新川公園があります。

地下１階・地上４階建ての施設のうち、図書館は主に１～３階、中央公民館は主に１～４階を使用しています。構造的には２つの機能が交わったり、中間領域となったりするようなスペースはない状況です。

昭和54年の開館から築45年以上が経過し、建物の老朽化が進んでいる状況です。

立地状況



施設外観



施設概要（図書館本館・中央公民館）

開館年	昭和54年
所在地	桐生市稲荷町1－4
延床面積	5,702.61㎡（うち図書館~~専有~~2,369.87㎡、中央公民館~~専有~~3,332.74㎡）
施設構成	地下１階：空調機械室等 １階：図書館（開架図書室、書庫、事務室等）、中央公民館（市民ホール、楽屋、事務室等） ２階：図書館（参考資料室、読書室、野間清治資料展示室等）、中央公民館（市民ホール等） ３階：図書館（プラネタリウム室）、中央公民館（研修室、料理室、工作室等） ４階：中央公民館（研修室、和室・茶室等） 屋上階：図書館（天体観測室）
駐車場	133台（うち２台身障者用）
駐輪場	120台
開館時間	図書館：火曜日～土曜日　午前9時～午後7時、日曜日　午前9時～午後5時、館内整理日（臨時開館）　午前9時～正午 中央公民館：午前9時～午後9時30分（日曜日・館内整理日は午後5時まで）
休館日	図書館：月曜日、国民の祝日、年末年始、資料点検期間 中央公民館：月曜日、祝日（その日が月曜日のときは、その翌日）、年末年始

3　図書館本館・中央公民館の現況

現在の桐生市立図書館・中央公民館は建物の竣工から50年近くが経過しつつあり、今後建物を改修して使い続けるためには、以下のような懸念事項が考えられます。

耐震性能の不足

- 昭和 56 年 6 月 施行の建築基準法施行令の一部を改正する政令により耐震設計基準が変わりましたが 、現図書館・中央公民館（昭和53年度竣工）は新耐震設計基準導入以前に設計されています。
- 平成11年に実施した現図書館・中央公民館の耐震診断では、建物の耐震性能を評価する構造耐震指標（Is値*） は0.63という結果が出ておりますが、「官庁施設の総合耐震計画基準」の指針では、多数の者が利用する施設である社会教育施設（図書館、公民館など）では 0.75が必要とされており、これを下回ります。
- 耐震診断時には、早急な耐震補強は必要ないと判断されていましたが、今後も建物の供用を続けるためには、適切な耐震補強と建物の長寿命化の措置が必要になります。

建物の老朽化

- 外壁や柱のひび割れ、屋根の雨漏りなど建物の老朽化による不具合も多く生じており、内外装ともに大規模修繕を行う必要があります。

設備の老朽化

- 電気設備、給排水設備、空調設備などについては、老朽化による故障箇所の修繕を繰り返しながら使用している状況です。また、設備や情報通信機器等の更新・増設等が必要な箇所も見受けられますが、建物の構造上、実施が困難な状況です。

バリアフリー化

- 現在の基準に合わせて、段差の解消、通路や出入り口の幅員の是正、多目的トイレや授乳室の設置など、適切なバリアフリー化を行う必要があります。

3　図書館本館・中央公民館の現況

桐生市立図書館本館

1）概要

桐生市立図書館は、本館、分館である新里図書館、公民館図書室14室からなります。

本館は、市民からの開設要望に端を発し、図書館用地や建設費の寄付により昭和10年に開館しました。レコードコンサート等を開催するなど、図書に留まらない活動を展開していました。その後、昭和54年に現在の場所に新築移転しました。

１階に利用者が資料を手に取る開架エリア、２階に参考資料、郷土資料、過去の新聞等が閲覧できる参考資料室、野間清治資料展示室、読書や学習に利用できる読書室、３階にプラネタリウムが配置されています。参考資料室、野間清治資料展示室、読書室の使用にはカウンター等での受付が必要です。

野間清治資料展示室は、桐生市出身の講談社創業者・野間清治に関する資料や、講談社の歴代出版物が収蔵され、桐生市のみならず県内、国内でもかなり貴重な日本の近代文化を伝えるものです。

また、昭和47年に桐生出身の歴史家羽仁五郎氏が寄贈した蔵書を、羽仁文庫として所蔵しています。

開架率は約７割となっていますが、書庫には余裕がなく、適切な配架が難しい状況です。閲覧席は、１階開架フロアは15席、２階読書室30席（ほか新聞コーナー、パソコン利用席11席、参考資料室10席）と、読書・閲覧・学習に使える席数は限られています。

本館沿革（抜粋）

年月	項目
昭和10年11月	桐生市図書館開館
昭和26年５月	第１回レコードコンサート開催
昭和33年４月	桐生市図書館を桐生市立図書館と改称
昭和47年12月	桐生出身の歴史家羽仁五郎氏が蔵書を寄贈（約13,000冊）
昭和54年11月	現在の位置で新築移転、開館 講談社から発行図書の寄贈が始まる（野間文庫）
平成12年10月	野間清治資料展示室（講談社寄贈図書展示室）を２階に開設
平成23年12月	赤ちゃん絵本コーナーを設置
令和元年６月	赤ちゃん絵本コーナー床改修
令和２年４月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（4月18日～６月１日。その後、開館時間短縮で再開し、７月には通常開館）
令和４年３月	子どもトイレの洋式化

本館蔵書点数・閲覧席数

蔵書点数	図書：211,695冊（うち開架141,654冊・66.9%、児童図書53,217冊・25.1%、野間清治資料展示室2,659冊） 視聴覚資料：12,908点 雑誌：168誌、新聞：23紙
閲覧席数	45席（1階：開架フロア15席、2階：読書室30席） ※その他、1階11席（新聞コーナー8席、パソコン利用席3席）、2階10席（参考資料室10席）

※蔵書点数：図書、視聴覚資料は令和７年度実績、雑誌・新聞は『日本の図書館2025』（令和６年度実績）

3　図書館本館・中央公民館の現況

利用条件

登録要件	桐生市、太田市、館林市、みどり市、足利市、佐野市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町に在住・在勤・在学の人 前橋市、伊勢崎市に在住の人 特別な理由により館長が認めた人 ※図書利用券は、桐生市立図書館・桐生市立新里図書館・14公民館図書室のどこでも利用可
貸出	図書・雑誌・紙芝居　各館でそれぞれ 10冊まで・ 14日以内 視聴覚資料　各館でそれぞれ 2点まで ・14日以内
予約	本・雑誌・絵本・紙芝居　5点まで 視聴覚資料　2点まで

一般開架の様子

一般開架全体の様子

児童開架の様子

児童開架全体の様子

新聞・雑誌コーナー



書庫

書庫の様子

参考資料室

参考資料室の様子

野間清治資料展示室

野間清治資料展示室の様子

読書室

読書室の様子

プラネタリウム



天体観測室

天体観測室の様子

3　図書館本館・中央公民館の現況

2）資料数

桐生市立図書館全体の資料数（令和7年度）は、本館約22万点、新里図書館約7.6万点、公民館図書室約9万点の計約39万点となっています。視聴覚資料は、公民館図書室には所蔵がなく、本館、新里図書館が所蔵しています。

蔵書構成は、本館が一般図書49.5%、児童図書23.8%、参考図書5.5%、郷土資料12.0%、洋書3.9%と、他館と比較して参考図書、郷土資料、洋書の割合が高くなっています。

蔵書数の推移をみると、全体としてはおよそ36.5万冊から37.5万冊の間で推移しており、本館、新里図書館はわずかに増加傾向にあります。過去10年間における本館の平均受入冊数は約8千冊、平均除籍冊数は約5千冊で、本館の蔵書冊数は徐々に増加しています。

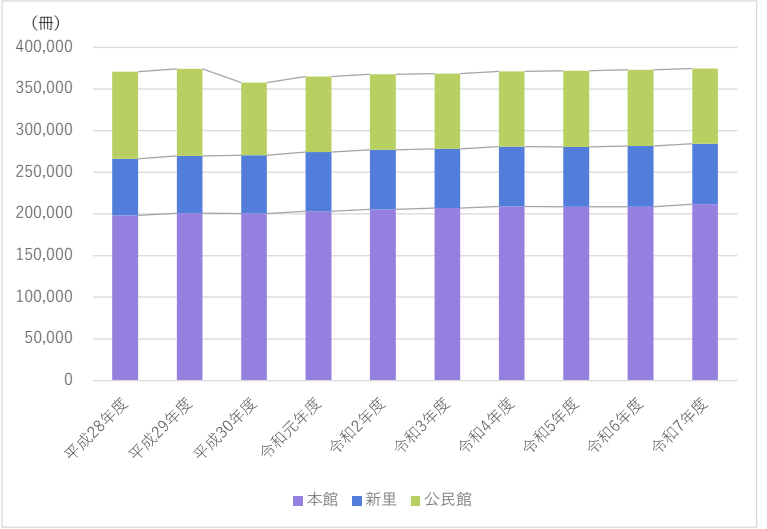
資料構成（桐生市立図書館全体）

単位：冊・点

資料／図書館		本館		新里		公民館		合計	
		冊数・点数	割合	冊数・点数	割合	冊数・点数	割合	冊数・点数	割合
図書資料	一般図書	110,475	(49.5%)	39,618	(52.1%)	47,450	(52.7%)	197,543	(50.7%)
	児童図書	53,217	(23.8%)	28,458	(37.4%)	39,821	(44.2%)	121,496	(31.2%)
	参考図書	12,381	(5.5%)	664	(0.9%)	689	(0.8%)	13,734	(3.5%)
	郷土資料	26,850	(12.0%)	3,998	(5.3%)	2,049	(2.3%)	32,897	(8.4%)
	洋書	8,772	(3.9%)	67	(0.1%)	43	(0.0%)	8,882	(2.3%)
図書資料計		211,695	94.8%	72,805	95.7%	90,052	100.0%	374,552	96.2%
視聴覚資料	CD	2,775	(1.2%)	2,321	(3.1%)	-	-	5,096	(1.3%)
	カセットテープ	1	(0.0%)	-	-	-	-	1	(0.0%)
	ビデオ	50	(0.0%)	17	(0.0%)	-	-	67	(0.0%)
	DVD	1,516	(0.7%)	903	(1.2%)	-	-	2,419	(0.6%)
	レコード	6,646	(3.0%)	-	-	-	-	6,646	(1.7%)
	マイクロフィルム	369	(0.2%)	-	-	-	-	369	(0.1%)
	CD-ROM等	263	(0.1%)	19	(0.0%)	-	-	282	(0.1%)
視聴覚資料計		11,620	5.2%	3,260	4.3%	-	-	14,880	3.8%
総合計		223,315	100.0%	76,065	100.0%	90,052	100.0%	389,432	100.0%

※令和７年度実績

蔵書数推移（桐生市立図書館全体）



3　図書館本館・中央公民館の現況

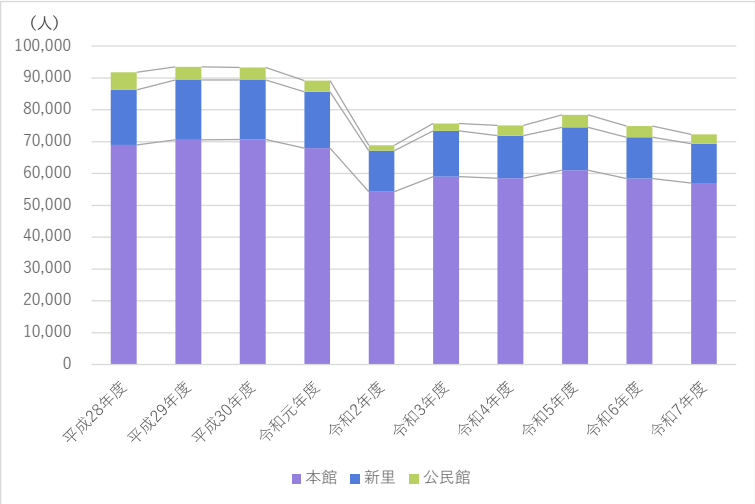
3）利用状況

桐生市立図書館全体の利用者数は減少傾向にあります。特に本館は、過去10年間で最も利用者数が多い平成30年度（70,610件）に対し、令和７年度（56,909件）は19.4%減少しています。

また、登録者のうち令和６年度に本館を利用したのは7,394人であり、人口約10万人の約７%程度と、利用状況に課題があります。

同様に、貸出点数も減少傾向にあります。本館における年代別貸出点数の構成比は、70歳以上の割合が増加し、令和７年度には27.9%を占めています。一方、他の世代の貸出点数は過去10年で減少しており、中高生（13～18歳）が2.1%、19～22歳が0.5%、23～29歳が2.0%と利用が少ない傾向にあります。

利用者数（桐生市立図書館全体）



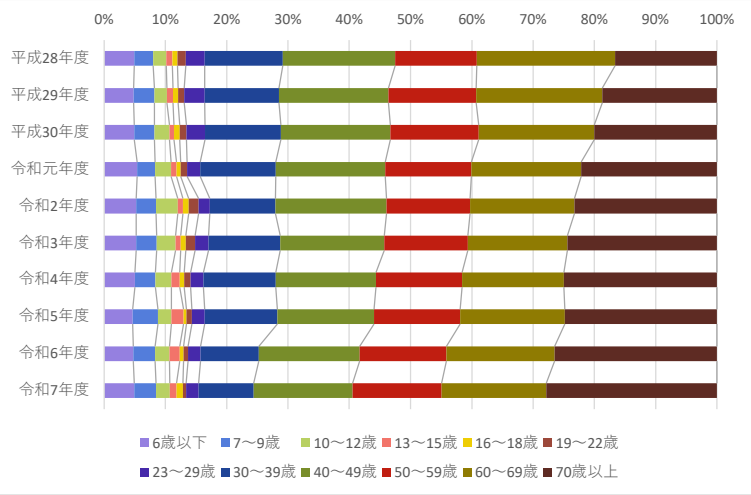
※個人・団体・相互貸出が対象

貸出点数（桐生市立図書館全体）



※個人・団体・相互貸出が対象

年代別貸出点数構成比（本館）

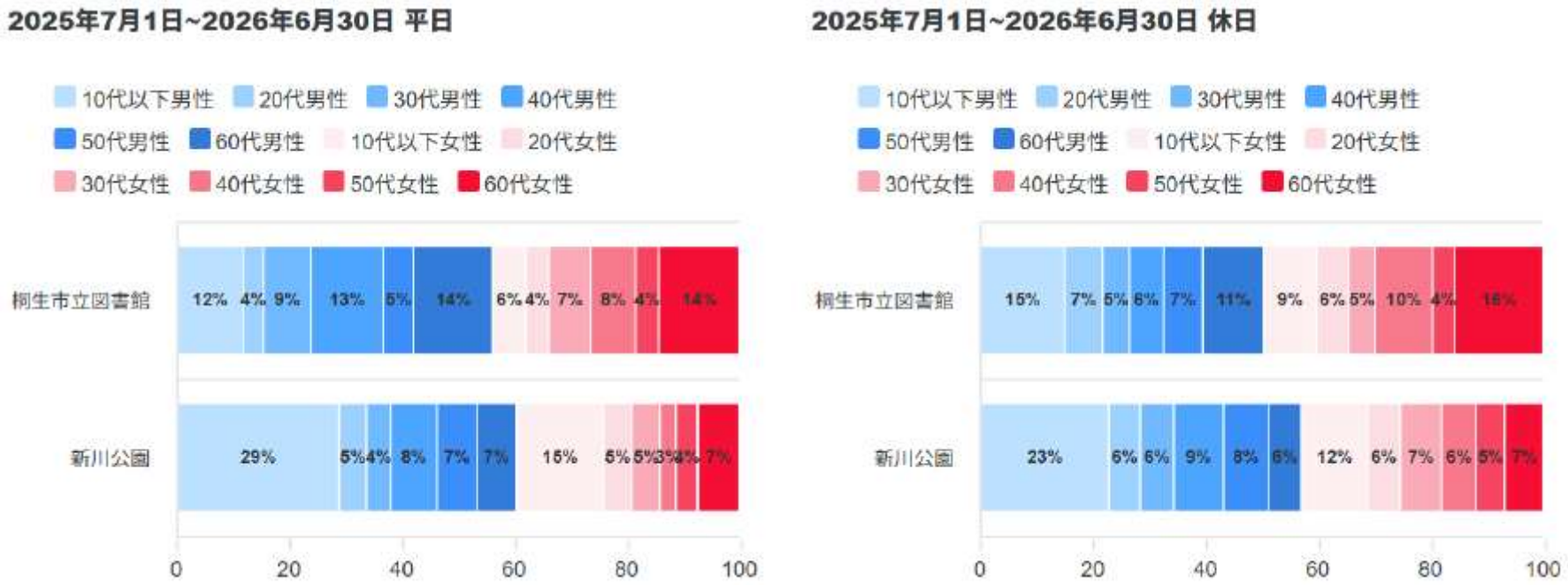


3　図書館本館・中央公民館の現況

3）利用状況

本館と、隣接する新川公園の来訪者属性をみると、本館は60代女性が高い割合を占め、高齢者層が来訪の中心となっています。一方、新川公園は10代以下の男性の割合が非常に高く、若年層に多く利用されており、隣接する施設で利用属性が大きく異なることがうかがえます。

本館・新川公園来訪者属性



（出典）マチレポ

3　図書館本館・中央公民館の現況

4）事業等

本館で行われている主な事業は、以下のとおりです。子どもが本に親しむ機会を提供するような事業や、郷土にまつわる事業のほか、関係団体との連携による事業も多く実施しています。

児童関係

- おはなし会、あおぞらおはなし会（新川公園での実施）
- ブックスタート、ブックスタートボランティア養成研修会
- 出張図書館（子育て支援センターへの本の出張貸出）
- 読み聞かせボランティア養成講座　など

団体等との連携

- 学校、高齢者福祉施設、児童クラブ等への団体貸出、出張貸出
- 図書館関係団体との連携
  - 例　おはなし会協力団体：市内小学校で桐生の民話を伝承／図書館ボランティアグループ：ブックスタート、ボランティア養成研修会／桐生文化史談会：史跡散歩、郷土史講座／野間清治顕彰会：ビブリオバトル、読書会　など

郷土にまつわる事業

- 郷土資料の調査・整理・目録の作成
- 郷土資料の写真版や翻刻による資料集の刊行
- デジタル版古文書講座「むかしの桐生にふれてみよう」　など

イベント

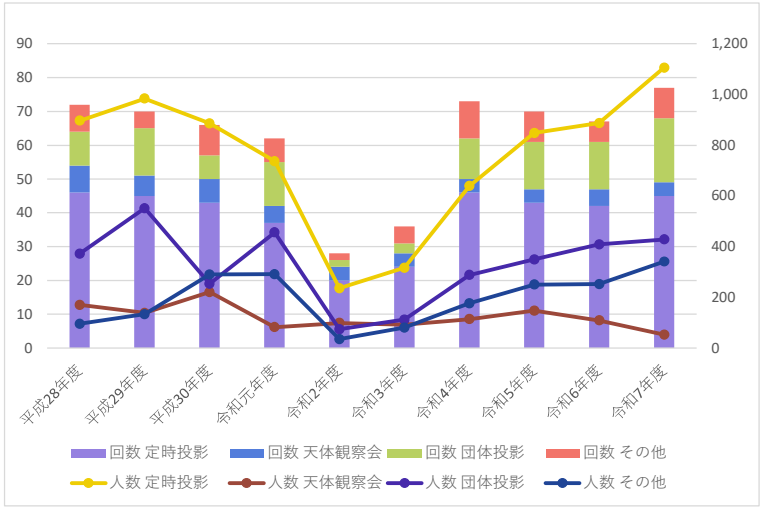
- 手づくり布の絵本全国コンクール
- 図書館フェスティバル
- 読書週間イベント　など

プラネタリウム

本館の特徴として、プラネタリウムの定時投影や団体投影、天体観察会を実施しています。

利用状況は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大幅に回数・人数が減少した令和２～３年度を除いて、平均して年間約70回実施、約1,600人が参加する事業となっています。

プラネタリウム事業実施回数・利用人数



3　図書館本館・中央公民館の現況

5）他自治体との比較

他自治体と桐生市を比較すると、延床面積は、同規模自治体とほぼ同規模となっています。蔵書冊数は、同規模自治体貸出密度上位10%の自治体平均と比較するとやや不足しますが、県内自治体や同規模自治体平均と比較するとやや多くなっています。

一方、貸出点数、予約件数は、県内自治体・同規模自治体・同規模自治体貸出密度上位10%の平均をともに大きく下回っており、利用が少ない状況です。

他自治体との比較（桐生立図書館全体）

項目	人口（人）	館数（館）	延床面積（㎡）	蔵書冊数（冊）	うち開架	開架率	貸出点数（点）	人口当たり	予約件数（件）
桐生市	102,988	2	3,117	373,078	186,063	49.9%	274,291	2.7	8,853
群馬県内自治体の平均	79,205.0	2.5	2,985.7	305,635.0	181,751.7	63.7%	364,464.3	4.8	37,067.9
群馬県内自治体平均との差	23,783.0	-0.5	131.3	67,443.0	4,311.3	-13.9pt	-90,173.3	-2.1	-28,214.9
同規模自治体（21自治体）の平均	102,811.9	1.9	3,392.4	359,506.6	183,841.1	53.0%	506,826.2	4.9	55,450.6
同規模自治体（21自治体）との差	176.1	0.1	-275.4	13,571.4	2,221.9	-3.2pt	-232,535.2	-2.3	-46,597.6
同規模自治体貸出密度上位10%の平均	101,171.0	1.0	2,664.0	381,148.5	174,207.5	48.8%	871,686.5	8.6	136,512.5
同規模自治体貸出密度上位10%との差	1,817.0	1.0	453.0	-8,070.5	11,855.5	1.1pt	-597,395.5	-5.9	-127,659.5

（出典）『日本の図書館2025』
※「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）」目標基準例の算出方法に従い、対象自治体のうち人口あたりの貸出冊数（貸出密度）が上位10%にあたる自治体の平均値を比較対象として採用している

3　図書館本館・中央公民館の現況

中央公民館

1）概要

桐生市内には、中央公民館と15館の地区公民館があります。

中央公民館は、「おいでよ！花と緑の ちゅうこうへ！」をキャッチコピーとし、市民文化活動の拠点として、ホールを含めた貸館や親子講座、自然体験講座、映画鑑賞会といった各種講座の開催、コンサート、高齢者大学等の事業を行っています。

貸館対象の諸室

階	部屋名	定員	面積
1階	市民ホール	490名	899㎡
3階	303研修室	26名	111㎡
	305料理室	25名	72㎡
	306工作室	25名	73㎡
4階	401研修室	12名	39㎡
	402研修室	15名	42㎡
	403研修室	52名	111㎡
	404研修室	29名	73㎡
	405和室	ー	22㎡
	406和室	ー	22㎡
	407茶室	ー	26㎡
	408研修室	10名	36㎡

市民ホール



研修室

研修室の様子

料理室

料理室の様子

工作室

工作室の様子

和室

和室の様子

茶室

茶室の様子

3　図書館本館・中央公民館の現況

2）利用状況

中央公民館は、主に公民館主催事業、団体等への貸館を行っています。

公民館主催事業では、令和７年度には講座を９回、コンサート・劇場を６回、高齢者大学及び関連講座・会議を計20回、文化展を行いました。

貸館については、展示、芸能、教養、スポーツに関する55団体が、活動場所として中央公民館を使用しています。

過去10年間の利用回数・利用者数を見ると、平成28年度（1,700回・46,296 人）から減少傾向にあります。令和２年度には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、多くの事業を自粛せざるを得なかったことから大きく減少しました。令和３年度からは回復傾向にありましたが、令和７年度は1,015回・25,121人と、平成28年度と比較して利用回数は約40%、利用者数は約50%減少しました。

中央公民館主催事業（令和７年度）

区分	講座・事業
講座	親子講座、自然体験講座、映画鑑賞会、中高年の教養講座
一般	水曜プロムナードコンサート、水曜劇場
高齢者	高齢者大学・特別講座・各種会議
その他	文化展

中央公民館利用者数・利用回数推移



4　現況施設の課題

現況施設の課題

1　桐生市の概要から見える課題

- 地域固有の歴史や文化がまちなかに息づいているものの、それに関する図書館での情報発信は限定的

2　上位計画等から見える課題

- 第六次総合計画に謳われる多様な世代に対応した学習機会の提供に向けた工夫が必要
- 公共施設等総合管理計画では、現本館は縮減せず、複合化・多機能化が求められているが、現施設は複合施設ではあるが多機能の実現は難しい

3　図書館本館・中央公民館の現況からみえる課題

- 築約47 年が経過し、建物・設備の老朽化が進行している
- 図書館・中央公民館との連携しづらい施設構造のため、相乗効果が生まれにくい状況にある
- 中学・高校に囲まれた立地だが、該当年代の貸出点数が他の年代に比べて極めて少ない
- 野間清治関連資料など貴重な資料を保存しているが、一般公開はされておらず、十分な活用がされていない
- 書庫には余裕がなく、開架エリアでは本の上にも横倒しで本が置かれるなど、適切な配架が難しい状況で、空間にゆとりがない
- 上記のように空間にゆとりがないことに加え、閲覧・学習に使える席数が少なく、施設内でゆっくり滞在できる場所、交流できる場所、閲覧・学習ができる場所がない
- 利用者数は、過去10年間で利用が最も多かった平成30年から比較して19.4％減少。過去１年間で図書館を利用した登録者は人口の約7％で、図書館を利用している市民が少ない
- 70歳以上の利用が増加しているのに対し、若年層の利用が非常に少ない
- 公園では若年層が来園している状況だが、図書館への利用にはつながっていない
- 他自治体と比較しても、貸出点数等利用が少ない
- 中央公民館も利用者数・回数が減少傾向にある